

令和5年度 学校評価アンケート【年度末】結果について(お知らせ)

板野中学校長 山田 匠

1月下旬から2月中旬にかけて学校評価アンケートをご依頼いたしましたところ、ご協力いただき、誠にありがとうございました。生徒のみなさん、保護者のみなさまからいただきました声をしっかり受け止め、今後の「より良い学校づくり」に活かしてまいりますので、なお一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。なお、集計結果の詳細につきましては、後日、本校ホームページに掲載しますのでご覧ください。

「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が80%を超えており、評価のよい項目	
◎保護者	
・ 子供は、楽しく学校生活を送っている。	88.8 %
・ 子供は、学校でいじめもなく、友だちと仲よくすごしている。	90.5 %
・ 子供は、場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	88.4 %
・ 子供は、遅刻をしないなど時間を守って生活している。	86.6 %
・ 子供は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	94.8 %
・ 子供は、予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています。	80.2 %
・ 保護者は子供の良いところを知っている。	95.3 %
・ 子供は、社会のルールを守る態度が育っている。	90.9 %
・ 子供は、自分を大切な存在であると思っている。	92.7 %
・ 子供は「とことん続ける目標」で、自信につながってきている。	80.6 %
・ 子供は、事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	81.5 %
・ 学校は、美しく整えられている。	86.2 %
・ 学校や先生は子ども同士のトラブルや悩みなどに迅速に対応している。	82.8 %
・ 学校や先生は、いじめや差別のない学校づくりをしている。	84.5 %
・ 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	88.4 %
・ 保護者は、学校の教育方針や教育活動のねらいを理解している。	81.0 %
・ 学校は、積極的にPTA活動に協力したり、地域との連携を大切にしようとしている。	86.2 %
・ 学校は、授業参観や学校行事などを積極的に公開している。	95.3 %
・ 学校の便りから、学校の取り組みや生徒の活動の様子がよく伝わる。	90.5 %
・ 学校から発信されるホームページ、マチコミメールは役に立っている。	92.2 %
◎生徒	
・ 学校での生活は楽しい。	89.0 %
・ 学校や学級で、いじめもなく友だちと仲よくすごしている。	92.8 %
・ 場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	95.1 %
・ 遅刻をしないなど時間を守って生活している。	89.0 %
・ 自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	94.3 %
・ 先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。	86.7 %
・ 予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています。	82.5 %
・ 提出物を忘れずに出している。	84.8 %
・ 授業の内容を理解している。	85.2 %
・ 社会のルールを守って生活している。	94.3 %
・ 「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった。	86.7 %
・ 道徳の時間に積極的に取り組んでいる。	89.4 %
・ 事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	87.1 %
・ 学校の施設・設備は安全である。	81.0 %
・ 時間いっぱい清掃に取り組んでいる。	92.4 %
・ 学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。	88.6 %
・ いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている。	93.9 %
・ 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	91.6 %
・ 学校からの便りを保護者にわたしている。	81.4 %
「よくあてはまる」「ややあてはまる」が60%に達しておらず、あまり評価のよくない項目	
◎保護者	
・ 子供は、家庭でも読書をしている	32.3 %
・ 子供は、将来の夢や希望の実現に向けて考えている	59.9 %
・ 子供が、道徳でどんなことを学んでいるか知っている	58.2 %
◎生徒	
・ 朝読書以外にも読書をしている。	37.6 %
・ 地域の行事に参加している。	35.0 %

※ うら面もあります。

評価の分析と今後の取り組みについて

☆生徒の調査について

生徒全体としてのアンケート集計結果では、設問項目1～8, 10, 15, 17, 18, 21～26, 30において、「よくあてはまる」「ややあてはまる」といった肯定的な意見が80%を超えており、概ね学校生活に満足している状況といえます。また、全調査項目のうち、肯定的意見が80%以上のものは、昨年度末調査の15項目から19項目に増加しました。

「学校生活・生活指導」(設問1～8)の分野である設問項目6「先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。」に対する肯定的な回答は、昨年度末の80.1%から、今年度末の調査では86.7%に上昇しています。今後は、「ややあてはまる」と回答した20.2%を25%以上に、「よくあてはまる」と回答した66.5%を70%以上の回答へ改善されるよう、生徒に寄り添った助言や指導を進めていきます。設問項目8「提出物を忘れずに出している」では、昨年度末の80.8%(肯定的意見)よりやや上昇し、84.8%でした。提出物をきちんと出せるようにすることを今年度の課題として捉え、声かけにとどまらず、提出物の内容やその設定手段についても再考し、板中メソッドやまとめの教材を活用するように指導した成果であると考えています。さらに指導を継続し、90%以上を目指します。

「学力・学習指導」(設問9～12)の分野である設問項目9「自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。」に対する肯定的な回答は、昨年度より若干上昇し、75.3%でした。今後も生徒が主体的に表現する機会をさらに増やし、80%以上を目指します。一方で、設問項目12「朝読書以外にも読書をしている」は、昨年度の35.1%(肯定的意見)より若干上昇したものの、37.6%と依然低い数値となっています。タブレットの導入で、紙媒体に触れる機会が減少したことも要因と考えられ、今後の課題といえます。校内では、図書室の利用を推進し、本を借りて読む生徒が増加していることから、来年度も読書習慣が身に付くよう、さらに取組を継続していきます。

「道徳教育」(設問15～18)における、「自分が大切な存在であると思っている。」、「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった。」、「とことん続ける目標で自信につながるようになった。」の項目は、昨年度調査で明らかな数値の減少が見られたため、今年度はその改善に努めました。道徳の授業改善はもとより、あらゆる教育活動の場面で道徳的意義を生徒に伝えたり、道徳の学習内容を学年通信等で家庭へ発信したりするなど、生徒の道徳心を豊かにできるように取り組みました。その結果、すべての項目で肯定的意見の数値が上昇したことから、徐々に道徳心は高まりつつあると考えています。

「人権教育」(設問24, 25)においては、それぞれの項目で肯定的意見が80%を超える結果となっています。特に、重点目標の一つである設問項目24「学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。」に対する肯定的意見は88.6%となり、昨年度末の80.8%から上昇していることから、生徒同士や生徒と教職員の関係は、ある程度良好な状態を保っていると考えます。

今後の課題は、80%に届いていない設問項目「9, 11, 12, 13, 14, 16, 19, 20, 27, 28, 29」への対策です。今後は、設問項目24を引き続き重点目標とし、生徒の日常が安定し、楽しく豊かな学校生活を送れるよう、これまで以上に生徒・保護者との関わりを密にしていきます。今年度の学校評価アンケートは、全体的に数値の上昇が多く見られ、極端に減少した項目は見られませんでした。しかし、設問項目1「学校生活は楽しい」が昨年と比べて減少していることや、数値のみで判断できない課題もあることを踏まえて対策を立てる必要があります。具体的には、『明日への扉』での目標設定と毎日の振り返りを通して、きめ細やかな生徒へのフィードバックを行います。また、学校内では、『時間を守る』、『掃除の徹底』、『聞こえるあいさつ』、『とことん続ける』を柱とした生活を継続させることで、「自立型人間の育成」に向けて取り組んでいきます。さらに、保護者、教員が一体となり、相互の関係を深めながら、生徒を見守り、望ましい方向へ導いていけるように努力していきます。このような日常の取組から、生徒の望ましい生活習慣を形成し、自己肯定感をさらに高めていきたいと考えます。学校での取組が成果として現れるには一定の時間が必要です。来年度は、これまでの取組をさらに強化するとともに、教職員と生徒との関わりを優しさと厳しさの両面から見直し、さらに関係を深めていきたいと考えます。

☆保護者の方々の調査について

設問項目1～8の学校生活全般については、6「学校は生徒同士のトラブルや悩みなど、生徒が相談しやすい環境づくりに努めている」が76.7%、8「子供は、提出物を忘れずに出している。」が76.3%であり、80%に達していない現状があります。また、80%を超えている設問項目でも昨年度より数値が下がっている現状を真摯に受け止めます。特に6に関しては、「あてはまらない」、「全くあてはまらない」の否定的な回答が10%を超え、無回答が12.5%あることを見ても、悩みをなかなか相談できずにいる生徒が一定数いることが分かります。改めて教職員と生徒の関係性を見直し、学級担任、教科担任、部活動の顧問等、それぞれの立場で、生徒の変化に気づけるように意識を高くしていきます。また、教職員間で生徒に関する情報を常に共有できる体制づくりに努めていきます。設問7・8における授業規律や学習への意欲に関する内容は、学力の向上にも関係してきます。学ぶ意味を生徒とともに共有し、指導者が授業改善に向けて日々努力を重ねていきます。

学力・学習指導に関する設問項目9～12の内容からは、昨年度より家庭学習や家庭で読書をする時間が増えていることが分かります。しかし、全体として学習内容の理解や学習習慣の定着は十分ではなく、今後の大きな課題であるといえます。本校では、教育DX推進事業の指定を受け、タブレットを使用した新しい授業の在り方を模索する中、生徒が主体的に学ぶために課題設定を工夫し、自らが知識を獲得し、思考ツールを使用しながら課題を解決する過程において思考力・判断力・表現力を育成しようとしています。これらの取組を継続することで、生徒の学力は定着することが分かってきたため、これからも授業改善を繰り返す中で、生徒に確かな学力を身に付けさせていきます。学力が身につけば、設問項目13「子供は、将来の夢や希望の実現に向けて考えている」の数値も上昇すると考え、今後は80%以上を目指して努力します。

道徳教育では、ほとんどの項目で数値の上昇が見られ、概ね満足のできる状況にあるといえます。特に17の設問項目「子供は『とことん続ける目標』で自信につながってきている。」で初めて80%を超え、行動目標への取組から行動が習慣化し、成功体験の積み重ねから自信がついてきたようです。

設問19・20の項目は、それぞれ昨年度より数値が減少しています。生徒会活動や部活動への主体的・積極的な取組は、保護者の方から十分な活動としての評価を受けられていないことを真摯に受け止めます。部活動では、生徒の意欲的な姿勢が練習や大会での活躍に大きく影響するため、技術的指導と心の指導をバランスよく行う必要があります。今後は、部活動のガイドラインを改めて全体で確認し、限られた時間で効率的な活動ができるように工夫していきます。

学校の環境安全に関する設問項目21～23では、肯定的意見の数値が昨年度より減少しています。老朽化による施設の不具合があるものの、環境整備等は、日常の清掃やボランティア活動の充実によって整えることができます。今後は、生徒へ指導をする側の教職員の意識を高くするとともに、防災対策に重点をおいて優先順位をつけながら施設・設備の安全対策に取り組んでいきます。

設問項目24・25は、生徒が安心・安全に学校生活を送るために特に重要視すべき内容です。肯定的意見が80%を超えていることに満足することなく、生徒間のトラブルやいじめは起こるといった認識に立ち、常日頃から生徒指導の充実に努めます。

設問項目27～31までは、肯定的回答がすべて80%以上で設問項目29「学校は、授業参観や学校行事などを積極的に公開している。」は95.3%であり、一定の理解を得られていると捉えることができます。どの項目も昨年度と大差がないとはいえ、常に保護者の方への情報発信を意識し、ともに子どもたちを育てるための協力が得られるよう、学校側からの働きかけを継続していきます。

今度も「子どもたちのより良い成長」を目指し、学校改善に取り組んでまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。